

「職業実践専門課程」に関する主な質問に対する基本的考え方

以下は、「職業実践専門課程」に関する主な質問に対する基本的な考え方を示したものです。詳細については、自治体等を通じて、文部科学省までお問い合わせください。

なお、「専修学校の専門課程における職業実践専門課程の認定に関する規程」に関する実施要項を「実施要項」、「専修学校の専門課程における職業実践専門課程の認定に関する規程」に関する記入要項を「記入要項」、「職業実践専門課程」の創設について（報告）を「報告書」と略記します。

また、「別紙様式」は、「実施要項」の別紙様式を指します。

【「職業実践専門課程」制度の趣旨】

Q1. 現行の専門課程と「職業実践専門課程」との関係について。

P 4

【第2条第2号関係：教育課程編成委員会等】

Q2. 教育課程編成委員会等の企業等委員の人数は何人が適当か。

Q3. 同じ専攻分野で昼間学科と夜間等学科がある場合、それらに共通の教育課程編成委員会等を置くときには、企業等委員は何人必要か。

Q4. 教育課程編成委員会等と学校関係者評価委員会の企業等委員は同一人物でもよいか。

P 5

Q5. 教育課程編成委員会等の企業等委員として兼任教員が参画することは可能か。

Q6. 教育課程編成委員会等や学校関係者評価委員会の同意書・承諾書はいつまでに必要か。

Q7. 教育課程編成委員会等の諸規程等はいつまでに必要か。

Q8. 「教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程」とはどのようなものを想定しているのか。

Q9. 「教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況」を記入することとされているが、今年度、新たに教育課程編成委員会を設置し、来年度に向けて、今後、意見の反映を行う場合は認定要件を満たさないのか。

【第2条第3号関係：実習・演習等】

P 6

Q10. 協定書の締結や実習・演習等の実施は、いつまでに行う必要があるか。

Q11. 教育課程編成委員会等及び学校関係者評価委員会では、兼任教員は企業等委員として参画することができないが、兼任教員が実施する実習・演習等は企業等と連携した授業に該当するか。

Q12. 医療、福祉等の指定養成施設の場合、法令上既に定められているカリキュラム内容があるが、企業等との連携が必要なのか。

Q13. 長期休暇を活用した実習・演習等で履修認定されないものであっても、認定要件を満たすか。

Q14. 学校に附属した実習施設や、設置者が同じだが学校とは独立した施設と連携した実習・演習等は認定要件を満たすか。

Q15. 実習・演習等において、企業等から派遣された講師等が授業を自ら直接実施しなくても認定要件を満たすか。

P 7

- Q16. 学科に在籍する全学生が実習・演習等を履修しなければならないか。
- Q17. 企業等と協定書等を締結していても、個別の講師等とも契約等を締結する必要があるか。
- Q18. 別途提出資料の協定書等や講師契約書等は、全ての企業等について提出する必要があるか。

【第2条第5号関係：教員の資質向上】

- Q19. 指導力の修得・向上に関する研修のみを実施している場合も認定要件を満たすか。
- Q20. 専修学校団体主催の研修会への参加についても実績として含まれるか。
- Q21. 研修に関する諸規程はいつの時点で必要か。

P 8

【第2条第6，7号関係：学校関係者評価】

- Q22. 学校関係者評価は、全ての項目を公開しなければならないか。
- Q23. 「(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応」の、「学校が設定する評価項目」は、どの程度記入すればよいか。
- Q24. 「職業実践専門課程」の認定においては、学校関係者評価の実施・公表は、努力義務ではなく義務となるのか。
- Q25. 学校関係者評価委員会の企業等委員として兼任教員が参画することは可能か。
- Q26. 学校関係者評価委員会の企業等委員は何人必要か。
- Q27. 学校関係者評価委員会の企業等委員以外の委員についても、同意書及び承諾書が必要か。

P 9

【第2条第8号関係：情報提供】

- Q28. 「(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応」の「学校が設定する項目」は、どの程度記入すればよいか。
- Q29. 財務情報の提供はどの程度まで行わなければならないか。

【別紙様式2関係】

- Q30. 別紙様式2はいつの時点のカリキュラムについて記入すればよいか。

【別紙様式4関係】

P 1 0

- Q31. 学校関係者評価委員会の企業等委員以外の委員についても、氏名や所属の公開が必要か。
- Q32. 就職率はどのように計算すればよいか。

【手続き】

- Q33. 平成25年度の今後のスケジュールはどうなっているか。
- Q34. 認定の単位は「専門課程」か。
- Q35. 1つの学科に複数のコース等を置いている場合、どのように様式を作成するのか。
- Q36. 新設学科の推薦は可能か。
- Q37. 平成25年4月1日時点で学校法人や専修学校の廃止及び統合、名称変更、カリキュラム変更を行った場合、学科の教育内容等に変更がないならば推薦が可能か。
- Q38. 在校生についても認定されれば「職業実践専門課程」での卒業が認められるのか。
- Q39. 認定後、カリキュラム等が大幅に変更となった場合、再度報告が必要なのか。

P 1 1

Q40. 推薦年度の前年度から推薦時点までの実績について記入することとされているが、推薦年度の前年度の実績が必要なのか。

Q41. 平成 25 年度中に認定を受けた場合、平成 26 年度以降の学則に何らかの形で反映させるのか。

【その他】

Q42. 専門士、高度専門士について再度、推薦が必要か。

【「職業実践専門課程」制度の趣旨】

Q1. 現行の専門課程と「職業実践専門課程」との関係について。

A 「職業実践専門課程」は、現行の「職業若しくは実際生活に必要な能力を育成し、又は教養の向上を図ること」を目的とする専門課程のうち、「職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行うもの」を認定するものです。

従って、専修学校の専門課程、高等課程、一般課程の3課程の制度そのものの見直しを行うものではありません。 [実施要項 2]

【第2条第2号関係：教育課程編成委員会等】

Q2. 教育課程編成委員会等の企業等委員の人数は何人が適切か。

A 教育課程編成委員会等は、それぞれの学科の専攻分野に関する企業等から委員が参画し、当該専攻分野における実務に関する知見をいかした意見を踏まえた取組を行うことが必要ですので、その目的に沿った適切な人数で構成してください。なお、教育課程編成委員会等を学校が主体的に運営するため、原則として、学校から教育課程の編成の責任者又はそれに準ずる者（学校長、教務長、学科長など）が参画することが必要です。 [記入要項 9 頁]

Q3. 同じ専攻分野で昼間学科と夜間等学科がある場合、それらに共通の教育課程編成委員会等を置くときには、企業等委員は何人必要か。

A 同じ専攻分野であっても、複数の学科に共通する教育課程編成委員会等を置く場合、記入要項「教育課程編成委員会等の委員構成について」（9頁）にあるとおり、「③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員」が、それぞれの学科の専攻分野に関する者として1人ずつ委員として参画することが必要です。

従って、同じ専攻分野の昼間学科と夜間等学科に共通する教育課程編成委員会等を置く場合、③の委員は2人以上必要となります。 [記入要項 9 頁]

Q4. 教育課程編成委員会等と学校関係者評価委員会の企業等委員は同一人物でもよいか。

A 両委員会の企業等委員が同一人物になる可能性はありますが、それぞれの委員会の役割等を諸規程等において明確にし、企業等委員の理解も得た上で、それぞれの委員会を開催することが必要です。 [報告書 5 頁]

Q5. 教育課程編成委員会等の企業等委員として兼任教員が参画することは可能か。

A 当該学校の教職員は、教育課程編成委員会等の企業等委員として参画することはできませんが、学校側の委員として参画することは可能です。

Q6. 教育課程編成委員会等や学校関係者評価委員会の同意書・承諾書はいつまでに必要か。

A 推薦を行う年度の前年度から推薦時点（平成 25 年度は、文部科学省への推薦のメ切は平成 26 年 1 月 10 日。）までの実績について推薦を行うことになっていますので、それまでに、同意書・承諾書を取得したうえで、教育課程編成委員会等や学校関係者評価委員会を開催することが必要です。なお、平成 25 年度については、委員の所属先の事情等によって同意書・承諾書がないままに開催した会議についても、委員の同意・承諾が遡って得られる場合には、現時点で同意書・承諾書が取得できれば、同意書・承諾書に基づく会議とみなして、認定要件を満たします。 [記入要項目次上段、9 頁]

Q7. 教育課程編成委員会等の諸規程等はいつまでに必要か。

A 推薦を行う年度の前年度から推薦時点（平成 25 年度は、文部科学省への推薦のメ切は平成 26 年 1 月 10 日。）までの実績について推薦を行うことになっていますので、それまでに、「教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程」及び「教育課程編成委員会等の規則」を整備し、それらに基づいて教育課程編成委員会等を開催等していることが必要です。

[実施要項 3 (2)] [記入要項目次上段、8 頁]

Q8. 「教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程」とはどのようなものを想定しているのか。

A 教育課程の編成における意思決定の過程に、教育課程編成委員会等が位置付けられていることが定められているものを想定しています。

この諸規程については、単独で定めるもの、又は各学校、専門課程、学科等における教務等に関する諸規程の中で定めるものなどが考えられます。 [実施要項 3 (2)] [記入要項 8 頁]

Q9. 「教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況」を記入することとされているが、今年度、新たに教育課程編成委員会を設置し、来年度に向けて、今後、意見の反映を行う場合は認定要件を満たさないのか。

A 平成 25 年度においては、「平成 25 年度における職業実践専門課程の推薦について（事務連絡）」のとおり、「次年度の授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等に活用することを組織として決定」した場合も認定要件を満たします。

この場合、別紙様式 1 の「1. (4) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況」には、別紙様式 2 を適宜引用しつつ、どの点を改善・工夫等することとしたのかが分かるように記載してください。

[実施要項 3 (2)] [記入要項 10 頁] [事務連絡（平成 25 年 8 月 30 日付）]

[事務連絡（平成 26 年 9 月 30 日付）]

【第2条第3号関係：実習・演習等】

Q10. 協定書の締結や実習・演習等の実施は、いつまでに行う必要があるか。

A 推薦を行う年度の前年度から推薦時点（平成 25 年度は、文部科学省への推薦のメ切は平成 26 年 1 月 10 日。）までの実績について推薦を行うことになっていますので、それまでに、協定書等を締結し、それに基づく実習・演習等を実施し終えていることが必要です。従って、実習・演習等を実施中である場合や、実施予定である場合などは、認定要件を満たしません。

なお、平成 25 年度については、協定書等を締結しないまま、その他の認定要件を満たす実習・演習等の科目を実施し、その後、推薦時点までに当該科目に関して協定書等を締結した場合であっても、既に実施した実習・演習等の科目について、その科目内容が協定書等の内容に反しないことを企業等が確認したことを証明する確認書（様式事由）などの書類が提出されれば、認定要件を満たします。〔実施要項 3 (3)〕〔記入要項目次上段、10～11 頁〕

Q11. 教育課程編成委員会等及び学校関係者評価委員会では、兼任教員は企業等委員として参画することができないが、兼任教員が実施する実習・演習等は企業等と連携した授業に該当するか。

A 専攻分野に関する企業等の役職員として兼任教員が実施する実習・演習等は、連携内容等について認定要件を満たせば、企業等と連携した授業に該当します。しかし、専攻分野に関する企業等の役職員である専任教員が実施する実習・演習等については、別途、企業等との協定書等を締結して連携を行っている場合に限り、企業等と連携した授業に該当します。

Q12. 医療、福祉等の指定養成施設の場合、法令上既に定められているカリキュラム内容があるが、企業等との連携が必要なのか。

A 医療、福祉等の指定養成施設における実習・演習等であっても、「職業実践専門課程」の認定を申請するのであれば、企業等と協定書等を締結するなど、「職業実践専門課程」の認定要件を満たす必要があります。なお、企業等には、病院、介護施設等の関係施設も含まれます。〔実施要項 3 (2)〕

Q13. 長期休暇を活用した実習・演習等で履修認定されないものであっても、認定要件を満たすか。

A 企業等と連携して実施される実習・演習等では、単に実習・演習等を行うだけでなく、成績評価や単位認定など学修成果の評価までを実施することが必要です。したがって、履修認定されないものは認定要件を満たしません。〔実施要項 3 (3)〕

Q14. 学校に附属した実習施設や、設置者が同じだが学校とは独立した施設と連携した実習・演習等は認定要件を満たすか。

A 学校に附属した実習施設については、学校と独立したものではないため、企業等には該当せず、認定要件を満たしません。しかし、学校に附属した実習施設において企業等から講師等を招くなどの連携により実施する実習・演習等であれば、認定要件を満たします。（校内実習の例）

また、設置者が同じだが学校とは独立した施設として、教育事業とは別に病院などの関係施設を設置運営している場合などは、企業等に該当しますので、当該施設との協定書等の締結等に基づいて実施する実習・演習等であれば、認定要件を満たします。

Q15. 実習・演習等において、企業等から派遣された講師等が授業を自ら直接実施しなくても認定要件を満たすか。

A 企業等から派遣された講師等が授業を自ら直接実施することは必ずしも必要ではありませんが、実習・演習等の実施について企業等と連携することを認定要件としているため、企業等の講師等が全く実習・演習等の実施に関与しない場合には、認定要件を満たしません。

[実施要項 3 (3)]

Q16. 学科に在籍する全学生が実習・演習等を履修しなければならないか。

A 認定要件を満たす実習・演習等の授業科目は、必修科目又は選択必修科目（認定要件を満たす実習・演習等の授業科目から選択する場合に限る。）として教育課程を編成し、当該学科の学生が必ず、認定要件を満たす実習・演習等の授業科目のうちいずれかを履修するものでなければなりません。

Q17. 企業等と協定書等を締結していても、個別の講師等とも契約等を締結する必要があるか。

A 企業等と協定書等を締結していれば、その協定書等に基づいて派遣等される講師等について、個別に契約等を締結する必要はありません。

Q18. 別途提出資料の協定書等や講師契約書等は、全ての企業等について提出する必要があるか。

A 連携する企業等の数が5つを超える場合は、「企業等との連携に関する協定書等や講師契約書等」については、任意で主な5つを選択して提出してください。この場合、別途提出資料の「実習・演習等において連携する企業等の概要」で選択する5つと同じ企業等を選択してください。

【第2条第5号関係：教員の資質向上】

Q19. 指導力の修得・向上に関する研修のみを実施している場合も認定要件を満たすか。

A 専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修と、授業及び生徒に対する指導力等を修得・向上するための研修の両方を組織的に行わなければなりません。
なお、全教員に必ず両方の研修を受講させることを求めるものではありません。例えば、授業評価等を通じ、いずれかの研修が必要な教員に研修機会を確保すること等を、諸規程に基づいて組織的に行っていることを求めるものであるため、結果的に、一部の教員が研修を受けないこともありえます。 [実施要項 3 (5)]

Q20. 専修学校団体主催の研修会への参加についても実績として含まれるか。

A 当該研修会の目的が、本号で求めている専攻分野における実務に関する知識等や、指導力等の研修として実施されている場合は実績として含まれますが、推薦時における書類において、研修の内容や、諸規程における位置付け等を明確にすることが必要です。

Q21. 研修に関する諸規程はいつの時点で必要か。

A 推薦を行う年度の前年度から推薦時点（平成 25 年度は、文部科学省への推薦のメ切は平成 26 年 1 月 10 日。）までの実績について推薦を行うことになっていますので、それまでに、諸規程を整備し、それに基づく研修を実施していることが必要です。 [記入要項 12 頁]

【第 2 条第 6, 7 号関係：学校関係者評価】

Q22. 学校関係者評価は、全ての項目を公開しなければならないか。

A 学校関係者評価については、「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえ、学校で行った全ての評価項目についての評価結果を公表しなければなりません。

なお、別紙様式 1 の 4. (2) で示した項目のうち、(1) から (9) は評価の実施が必要ですが、(10) 及び (11) は評価の実施は任意です。

[実施要項 3 (6)] [記入要項 13 頁～15 頁]

Q23. 「(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応」の、「学校が設定する評価項目」は、どの程度記入すればよいか。

A 「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえ、別紙様式 1 の 4. (2) で示した評価項目について、学校で評価項目を設定していることがわかるように、評価項目を例示して記入してください。

なお、別紙様式 1 の 4. (2) で示した項目のうち、(1) から (9) は評価の実施が必要ですが、(10) 及び (11) は評価の実施は任意です。 [記入要項 14 頁]

Q24. 「職業実践専門課程」の認定においては、学校関係者評価の実施・公表は、努力義務ではなく義務となるのか。

A 「職業実践専門課程」の認定要件として、企業等との連携による実践的な教育活動等を求める観点から、企業等から委員が参画した学校関係者評価の実施・公表を義務として求めています。また、特に企業等から参画した委員の意見について、推薦学科の教育活動その他の学校運営の改善等に活用することにより、PDCA サイクルによる質保証・向上の取組を求めるものです。 [実施要項 3 (6)] [記入要項 13 頁～15 頁]

Q25. 学校関係者評価委員会の企業等委員として兼任教員が参画することは可能か。

A 当該学校の教職員は、学校関係者評価委員会の企業等委員として参画することはできません。

Q26. 学校関係者評価委員会の企業等委員は何人必要か。

A 学校関係者評価委員会は、推薦学科の専攻分野に関する企業等から委員が参画し、当該専攻分野における実務に関する知見をいかして推薦学科の教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を教育活動及びその他の学校運営の改善にいかしていくことが必要ですので、その目的に沿った適切な人数で構成してください。

なお、複数の学科に共通する学校関係者評価委員会を置く場合には、前述の趣旨を踏まえていれば、必ずしも学科と同数の企業等委員が参画することを求めるものではありません。

[記入要項 13 頁]

Q27. 学校関係者評価委員会の企業等委員以外の委員についても、同意書及び承諾書が必要か。

A 学校関係者評価委員会の企業等委員以外の委員（保護者、地域住民等）については、同意書及び承諾書を文部科学省へ提出する必要はありません。

しかし、学校関係者評価委員会の委員名簿を文部科学省に提出することが必要であるとともに、学校関係者評価委員会の全委員の氏名及び所属が公開されることから、企業等委員以外の委員（保護者、地域住民等）についても、その旨をご本人に承諾いただくなど、適切な手続きをとることが望ましいと考えます。[実施要項 5(4)]

【第2条第8号関係：情報提供】

Q28. 「(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応」の「学校が設定する項目」は、どの程度記入すればよいか。

A 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」を踏まえ、別紙様式1の5.(2)で示した情報提供の項目について、学校で項目を設定していることがわかるように記入してください。当該項目については、原則としてホームページで情報提供しなければなりません。

なお、別紙様式1の5.(2)で示した項目のうち、(1)から(9)は情報提供が必要ですが、(10)及び(11)は情報提供は任意です。

[実施要項 3 (8)] [記入要項 14 頁、16 頁～17 頁]

Q29. 財務情報の提供はどの程度まで行わなければならないか。

A 私立学校法第47条に定める「財産目録等」を全てホームページで公開することは認定要件となっていませんが、社会への説明責任を果たし、質保証・向上に取り組む観点から、学校教育法第43条の趣旨も踏まえ、積極的な情報提供を行わなければなりません。

【別紙様式2関係】

Q30. 別紙様式2はいつの時点のカリキュラムについて記入すればよいか。

A 別紙様式2は、推薦時点におけるカリキュラムについて記入してください。平成25年度において、次年度よりカリキュラムを改正する場合でも、推薦時点において実施しているカリキュラムについて記入してください。

なお、1年生と2年生でカリキュラムが違うような場合には、最新のカリキュラム（1年生のもの）を記入してください。

【別紙様式4関係】

Q31. 学校関係者評価委員会の企業等委員以外の委員についても、氏名や所属の公開が必要か。

A 学校関係者評価委員会の企業等委員以外の委員も含めた全委員について、氏名や所属を公開することが必要です。このため、企業等委員以外の委員について、同意書・承諾書を求めるものではありませんが、その旨をご本人に承諾いただくなど、適切な手続きをとることが望ましいと考えます。

Q32. 就職率はどのように計算すればよいか。

A 就職率（％）については、学校基本調査で回答した数値を用いて、以下のとおり計算してください。

$$(\text{推薦年度の前年度の卒業生のうち就職した人数}) \div (\text{推薦年度の前年度の卒業生の人数}) \times 100$$

【手続き】

Q33. 平成 25 年度の今後のスケジュールはどうなっているか。

A 平成 25 年度以降のスケジュールは次のとおりです。

平成 25 年度については、「専修学校における学校評価ガイドライン」が本年 3 月に策定されたこと、告示が本年 8 月に公布・施行されたことを踏まえ、推薦時期、「教育課程編成委員会等」及び「学校関係者評価」に関する要件について、弾力的な対応を行うこととしています。

○平成 25 年度

[実施要項 7- (2)、事務連絡(平成 25 年 8 月 30 日)、事務連絡(平成 25 年 9 月 30 日)]

・都道府県知事等・・・・・・・・・・・・・・・・各都道府県で申請の締切りを設定

・都道府県知事等から文科省への推薦期限・・・・・・・・平成 26 年 1 月 10 日

＊教育課程編成委員会等・学校関係者

評価委員会の最終的な対応を報告する場合・・・・・・・・平成 26 年 2 月 21 日

・認定の告示・・・・・・・・・・・・・・・・原則として平成 26 年 3 月

○平成 26 年度以降 [実施要項 4- (3)]

・都道府県知事等から文科省への推薦期限・・・・・・・・毎年 11 月 30 日

・認定の告示・・・・・・・・・・・・・・・・原則として毎年 2 月

Q34. 認定の単位は「専門課程」か。

A 「職業実践専門課程」の認定は、当該専攻分野の特色を踏まえた実践的かつ専門的な教育活動を認定し奨励するものとして「学科」単位で行います。

Q35. 1つの学科に複数のコース等を置いている場合、どのように様式を作成するのか。

A 1つの学科に複数のコース等を置いている場合、コース毎にそれぞれ別紙様式 1～4 を作成してください。「学科」単位で認定するため、1つでも認定要件を満たさないコース等がある場合には、学科全体として認定されません。

別紙様式の記入にあたっては、「○○学科(△△コース)」のように記入してください。「生徒総定員」「生徒実員」「専任教員数」「兼任教員数」「総教員数」「就職率」等については、コース毎の人数等を記入してください。コース毎に生徒定員を設定していない場合には、「○人の内数」と記入してください。(○人は、学科の「生徒総定員数」です。)

なお、別途提出資料については、同一資料を複数提出する必要はありませんので、どの資料がどの様式に対応した別途提出資料なのかわかるようにして提出してください。

Q36. 新設学科の推薦は可能か。

A 認定要件については、当該学科における実績に基づいて推薦いただくため、新学科が設置された時点での推薦は認めておらず、実施要項においては、初めて当該課程の修了者が出た年度の次年度より、推薦の対象となる旨を明記しています。[実施要項 5- (3)]

Q37. 平成 25 年 4 月 1 日時点で学校法人や専修学校の廃止及び統合、名称変更、カリキュラム変更を行った場合、学科の教育内容等に変更がないならば推薦が可能か。

A 都道府県知事等において、当該学科を廃止・新設としていないのであれば推薦が可能です。
[実施要項 5- (3)]

Q38. 在校生についても認定されれば「職業実践専門課程」での卒業が認められるのか。

A 認定要件を満たす課程（学科）として認定された後から「職業実践専門課程」の組織としての教育活動が認められることを前提としていますので、仮に平成 26 年度から「職業実践専門課程」が開始した場合、平成 26 年度に入学する生徒から、「職業実践専門課程」の生徒として認められます。 [実施要項 5- (3)]

Q39. 認定後、カリキュラム等が大幅に変更となった場合、再度報告が必要なのか。

A 現時点では、カリキュラム自体を変更することをもって文部科学省に報告いただくことは想定していませんが、推薦時に提出するとともに学校のHPに掲載する「別紙様式 4 職業実践専門課程の基本情報」を更新し、広く関係者への情報提供を行ってください。
[実施要項 5- (4)]

Q40. 推薦年度の前年度から推薦時点までの実績について記入することとされているが、推薦年度の前年度の実績が必要なのか。

A 推薦年度の前年度に実績があることは必ずしも必要ではなく、推薦年度のみ実績があっても認定要件を満たします。 [記入要項目次上段]

Q41. 平成 25 年度中に認定を受けた場合、平成 26 年度以降の学則に何らかの形で反映させるのか。

A 「職業実践専門課程」の認定を受けるために必ずしも学則の変更を求めるものではありません。

【その他】

Q42. 専門士、高度専門士について再度、推薦が必要か。

A 専門士、高度専門士について、「職業実践専門課程」の推薦に際して、再度推薦いただく必要はありません。また、「職業実践専門課程」の推薦と専門士、高度専門士の推薦は別の手続きです。なお、別紙様式 1 に専門士、高度専門士の付与状況を記入する欄を設けています。